

令和9年度 4月採用
黒部市民病院
初期臨床研修医
【募集要項】
【研修プログラム】



開設者 黒部市長 上坂 展弘 院長 辻 宏和
所在地 〒938-8502 富山県黒部市三日市 1108 番地 1
電話 0765-54-2211(代表) FAX 0765-54-2962
ホームページ <http://med-kurobe.jp/>

黒部市民病院

令和9年4月採用 初期臨床研修医 募集要項

1. 募集人員 8名

研修医定員数(各年次)

区 分	公募(基幹型)	大学病院 臨床研修群	合 計
1年次	8	4	12
2年次	8	4	12
合 計	16	8	24

2. 応募資格

令和8年度医師国家試験合格(見込み)者で、マッチングプログラムに参加する方

3. 選考方法

筆記試験及び面接

- ・ 筆記試験は医学的知識を問うもので、小論文形式で回答。面接は個人面接。

4. 選考日

令和8年7月26日(日)、7月31日(金)、8月15日(土)

開始時間は受験者数が確定次第お知らせします。

上記以外も随時実施できますのでご相談ください。

5. 応募書類

- ① 臨床研修申込書兼履歴書(当院指定書式。HPに掲載)
- ② 卒業見込み証明書または卒業証明書(大学で発行するもの)

6. 応募先・問い合わせ先

〒938-8502 富山県黒部市三日市1108番地1

黒部市民病院 総務課 臨床研修係 (担当 吉枝・石川)

TEL: 0765-54-2211 FAX: 0765-54-2962

E-mail: somu2@med.kurobe.toyama.jp

7. その他

- ・ 受験者には当院の規定による交通費を支給します。
- ・ 事前の病院見学も随時受け付けています。
- ・ ご希望やご質問があれば、まずはお気軽にご連絡ください。

黒部市民病院の概要

■ 病院憲章

「日々念心」（にちにちねんしん）

病院の使命は、完全なる診療を行うにある。

ために施設の充実、医療に関わる者の弛まぬ研究が必要である。

而も人齊しく、容易に医療を受け得るよう不断に工夫努力を払うべきである。

更には心の触れあいを通し、治療の完きを期し、ここに従事するものは総て懇切丁寧を旨とすべきである。

— 初代院長 開院の辞より —

■ 病院基本方針

○良質な医療を保つ

- ・新川医療圏の救急・急性期医療を支える医療機関として 5 疾病 6 事業を含めた幅広い疾患に対応するため、施設・設備の充実を図ります。
- ・病院スタッフは継続して自己研鑽を行い、病院はその環境作りのためにワークライフバランスの推進や教育・研修機能の充実を行っていきます。
- ・地域医療を引き続き提供していくために、経営の安定を目指します。

○信頼を培う

- ・患者対応に最善を尽くし「患者さんとスタッフの信頼」を築くとともに、患者さんやご家族を含めた「チーム医療」を推進します。
- ・相手のことを考え・感謝し・安心して意見を言い合えるような「スタッフ間の信頼関係」を培います。
- ・地域の医療・保健・福祉施設と連携を密にし、切れ目のない医療を提供します。

○安心の医療を届ける

- ・良質な医療を保ち、信頼を培うことにより、安心の医療を提供します。
- ・多様な人が容易に医療を受けることができるように、病院スタッフは一人一人が良識や使命感を持ちながら、考え行動します。
- ・自治体病院として、社会資本のひとつである医療を守り、住民生活を支えます。

■ 病院の特色（力を入れていること）

1. 積極的な初期臨床研修制度（病院全体で研修医を育てる）
2. 救急医療体制

2.5 次救命救急センター（県指定） 365 日 24 時間対応

地域救命センター・新川医療圏小児急患センター、地域周産期母子医療センター

上級医の指導の下、ファーストタッチは基本的に研修医

地域災害拠点病院の整備（屋上ヘリポート設備、DMAT）

3. 24 時間体制のカテーテルインターベンション（循環器科・放射線科）

4. 病診連携（地域医療連携室、「扇状地ネット」）

5. 国際医療交流

姉妹都市の米国ジョージア州メーコン・ビブ郡にあるマーサー大学医学部および
エイトリアムヘルスナビセント医療センターとの医療交換交流

6. がん診療（地域がん診療病院）

7. 院内保育所「さくらんぼ」（夜間保育・土曜保育あり、子育て中も働きやすい）

■ 病院の沿革・特徴

当院は、昭和 23 年に桜井町国民健康保険組合直営組合立下新川厚生病院として開院以来、長年にわたり富山県東部の新川医療圏の中核病院として救急、急性期医療の役割を担っている。

日本医療機能評価機構認定病院であり、地域災害拠点病院、地域救命センター、地域周産期母子医療センター、第二種感染症病院、へき地医療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院等の指定を受けている。

主な特色としては、救急患者を 24 時間 365 日受け入れており、年間約 14,000 人の患者を扱うと共に、分娩数も約 350 件と市中病院ならではの症例を豊富に経験できる。

また、令和 4 年 6 月には人工関節手術支援ロボティックアーム MAKO システム、令和 5 年 9 月には内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ Xi」を新たに導入した。

■ 診療科目（32 科）

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓・リウマチ内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、感染症内科、漢方内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、耳鼻いんこう科、小児科、産婦人科、皮膚科、眼科、整形外科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、脳神経外科、麻酔科、精神科・心療内科、形成外科、歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、救急科

■ 医師数（歯科医師を除く）

97 名（うち初期臨床研修医 1 年次 9 名、2 年次 9 名）（令和 8 年 4 月現在）

■ 病床数

372 床（一般 363 床、結核 5 床、感染 4 床）

■ 1日平均患者数（令和7年度）

入院：266.3人（病床利用率58.8%）、 外来：760.3人

■ 主な診療実績（令和7年度）

救急患者数 約14,000人

救急車取扱件数 約2,600件

全身麻酔手術件数 約2,000件

分娩件数 約350件

■ 主な診療設備：

ICU・HCU・NICU完備、バイオクリーン手術室、骨髄移植用無菌病室、
全身CT装置（2台、128列）、MRI装置（2台、3.0T・1.5T）、
放射線治療装置（リニアック）、PET-CT装置、乳房X線撮影装置、
心血管及び頭・腹部血管連続撮影装置、3D医療用画像処理システム、
ガンマカメラ装置、人工透析装置、高周波温熱治療装置（2台）、
衝撃波結石破碎装置、人工関節手術支援ロボティックアーム Mako システム
診断及び手術用内視鏡システム（神経、気管支消化管、胸腔・腹腔、関節など）
内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ Xi」

■ 主な高度医療：

造血幹細胞移植、各科カテーテルインターベンション（PCI等）、
各科内視鏡手術（内視鏡的粘膜下層剥離術等）、
鏡視下手術（外科・整形外科・泌尿器科・産婦人科・胸部外科等）
スポーツ医学、脳血管内手術、乳房再建術等

■ 米国医療交流協定締結施設：

マーサー大学（住所：1550 College Street, Macon, Georgia 31207-0001, USA）
エイトリアムヘルスナビセント医療センター
（住所：777 Hemlock Street Macon, Georgia 31201, USA）

■ 交通アクセス

あいの風とやま鉄道・黒部駅から 徒歩 約8分

富山地方鉄道・電鉄黒部駅から 徒歩 約6分

北陸新幹線・黒部宇奈月温泉駅から 自動車 約10分

黒部市民病院
臨床研修プログラム

I. プログラムの名称

黒部市民病院臨床研修プログラム

II. 臨床研修の目標（当院における研修目標を以下のPASで表わしている。）

1. プライマリーケア、救急医療の基礎的知識と技術の修得（Primary care）
2. 患者様中心の全人的医療の実践（Art）
3. 病理解剖、CPC、臨床研究など科学的態度の修得（Science）

III. 臨床研修の特色

1. 救急研修(2. 5次地域救命センター)の実践

年間救急患者数は約 14,000 人。富山県内でもトップクラスの救急症例数をファーストタッチで診療できる。救急患者は 24 時間 365 日受け入れており、一次救急から三次救急まで多種多様な症例を経験できる。

2. 国際医療交流

米国ジョージア州メーコン・ビブ郡(黒部市と姉妹都市)のマーサー大学医学部及びエイトリアムヘルスナビセント医療センターと医療交流協定を締結している。

年間 2 名の米国指導医が 5 月～7 月に来訪し各 2 週間滞在する中で、研修医とのレクチャーや症例検討会を毎日行う。米国の医療や日米での考え方の違い等についても理解を深めることができる。

また、基幹型の 2 年次には同大学、センターでの医療見学も経験できる。

3. 屋根瓦方式の指導

指導医による研修医向けのレクチャーを定期的で開催している。(年 25 回程度)

研修医 2 年次が 1 年次に対して行うレクチャーも年度初めと年度末に行なっている。

4. 厚生福利の充実

有給休暇は年間 20 日間あり、サバチカル休暇制度(連続休暇取得)を推奨している。病院に隣接した医師官舎を利用できる。

(1Kタイプ、家賃(共益費等含)約 15,000 円/月、オール電化)

5. 柔軟な履修科目の選択

研修医の希望に応じ、履修科目を選択できる。

IV. 研修医の処遇

- 研修手当 1年次:給料月額約 516,000 円、賞与 年 2 回 約 500,000 円(見込)
宿日直手当(11,250 円/回)
2年次:給料月額約 565,000 円、賞与 年 2 回 約 800,000 円(見込)
宿日直手当(22,500 円/回)
※アルバイト診療は禁止
- 身分 常勤嘱託
- 宿 舎 研修医官舎・病院借り上げ宿舎貸与
家賃(共益費等込み)約 15,000 円(1Kタイプ)、光熱水費等本人負担
- 社会保険 加入(健康保険、厚生年金、雇用保険)、
地方公務員災害補償法の適用有り
- 賠償保険 病院において加入
(全国自治体病院協議会の病院賠償責任保険及び勤務医賠償責任保険)
- 勤務時間 8 時 30 分から 17 時 15 分 (休憩時間は 12 時 30 分から 13 時 30 分)
原則として土日祝祭日及び年末年始の休日を除く
ただし、患者の状態により、時間超過を余儀なくさせられる場合がある
- 当 直 月に 4 回から 6 回程度
- 有給休暇 20 日(1年次)、20 日(2年次) サバチカル休暇(連続休暇取得)を含む
- 特別休暇 夏季休暇 3 日
- 健康管理 健康診断(年 1 回)
予防接種(インフルエンザ、HB、麻疹・風疹、水痘、流行性耳下腺炎)
※接種歴、抗体価により不足しているものについて希望があれば接種します

V. 臨床研修計画

① 共通到達目標の設定

- A) すべての臨床医に求められる基本的診療に必要な知識、技能、態度を身につける。
- B) 緊急を要する疾患、または外傷をもつ患者の初期診療に関する臨床能力を身につける。
- C) 慢性疾患患者や高齢患者の管理の要点を理解し、リハビリテーション、在宅医療、社会復帰の計画・立案を行う能力を身につける。
- D) 末期患者を人間的、心理的理解の上において、治療し管理する能力を身につける。
- E) 患者および家族との正しい人間関係を確立する態度を身につける。
- F) 患者を身体的だけでなく、心理的・社会的の面も併せて全人的にとらえ、適切に問題を解決し、説明、指導する能力を身につける。
- G) チーム医療を行なう上で他の医師および医療メンバーと協調する習慣を身につける。
- H) 他科あるいは上級医に委ねるべき問題があれば、必要な記録を添えて転送する時機を判断する能力を養う。
- I) 医療評価ができる適切な診療録を作成する能力を身につける。
- J) 臨床を通じて思考力、判断力および創造力を培い、自己評価をし、第三者の評価を受け入れ、還元する態度を身につける。
- K) 保健医療に関する法規、医療・介護保険制度、地域保健などを含む医療の社会的側面について広い理解と適切な対応を身につける。

② 教育課程 臨床研修課程を2年間とする。

③ 研修方式 スーパーローテイト方式とする。

④ 臨床研修期間割(下記一例)

	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
1年目	内科			外科	小児科	産婦人科	救急			内科			
2年目	精神科	選択	地域医療	選択									

- * 地域医療研修は、あさひ総合病院、市立根室病院、厚生連滑川病院、大崎市民病院(岩出山分院、鹿島台分院)で行う。
- * 応募臨床研修医の意向を検討の上、期間割にそって臨床研修医を配置する。
- * 但し、人数等により変更することがある。
- * 選択科目の期間で、金沢大学附属病院や富山大学附属病院、富山県立中央病院(救急科)、大崎市民病院(救急科)の研修も可能。
- * 一般外来については、内科・外科・小児科・地域医療の期間に行う。

⑤ 臨床研修内容(例)

診療科目	主な臨床研修内容
内科	<p>初期目標は、1)内科疾患全般で、診断に至るプロセスと治療を計画実行しそれに伴う基本的手技ができる、あるいはそれが可能となる診療姿勢が身に付く、2)初期救命処置ができ、救急外来、当直業務がこなせることの2点である。更に、専門別知識をふまえた幅の広い内科研修を目指す。</p> <p>研修は、循環器、呼吸器、消化器、内分泌代謝、腎臓病、膠原病、血液、神経内科の専門別(希望調査有り)に分れ、各指導医の下で一般外来(週1回程度)及び入院患者を担当する。</p> <p>毎週1回、内科医師全員と放射線科、病理医師が加わった症例検討会を行い、診療レベルの維持に努めている。担当症例は、内科学会のほか各専門学会の経験数に含めることができる。</p> <p>指導医(3か月で交代)―副指導医―2年次研修医―1年次研修医によるチーム医療(いわゆる屋根瓦方式)を行うほか、毎朝チームによる新患検討会が行われる。</p>
外科	<p>指導医の下、担当医として腹部、消化器、内分泌疾患の診断、治療を行う。また、病理と合同の術前検討会を週1回、消化器内科、放射線科と合同の症例検討会を月1回行い、地方会においても積極的に参加し演者として発表する。</p>
地域医療	<p>地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織との連携を行う。協力型病院等にて4週間の地域医療研修を実施し、期間中週1～2回程度の一般外来、在宅医療の研修をそれぞれ行う。</p>

<p>呼吸器外科 心臓血管外科</p>	<p>胸部外傷、気胸、肺癌、血管損傷、動脈瘤、動脈閉塞、静脈瘤などの診療として気管支鏡、胸腔ドレナージ、気管切開、鏡視下肺切除、血管造影、血管縫合、血栓摘除、血管内手術などの手技を修得する。大動脈解離の集中管理・降圧療法・手術を修得する。 血栓症の診断として血液学的方法や超音波などの画像検査を修得し、経カテーテル的血栓溶解、抗血栓療法などを修得する。術前・術後管理の知識と技術を習得する。</p>
<p>小児科</p>	<p>一般病院における小児科診療の様子を肌で感じることを目標とする。対象疾患は感染症が最も多い。流行疾患の特徴を知り、感染予防の基本についても学ぶ。 小児期の基本的な疾患は、できるだけ実際に経験する。アレルギーや神経などの疾患も多く、また、発育発達の評価、予防接種、新生児のケアなど、小児特有の領域もある。 他診療科、保健所、学校・幼稚園などとの連携、掲示・配布物などによる啓蒙の重要性についても理解する。診療の対象はこどもであるが、母親をはじめ、家族のケアが重要であることを理解する。カバーする領域が多岐にわたるため、まれな疾患や思うようにいかない疾患に出会うことも多く、そうした際に悩みながら対処している日常の診療風景を見聞する。外来では、小児の採血、点滴、迅速検査などの処置に習熟する。病棟では、小児科医師のもとで、準主治医となって、症例を受け持つ。</p>
<p>整形外科</p>	<p>新鮮外傷、脊椎疾患、関節疾患、スポーツ障害が多く脊椎・関節鏡視下手術も盛んに行われている。筋腱、神経・血管などの創傷処置と骨折、脱臼、脊髄損傷など救急外傷に対する診断と初期治療を学ぶ。また、症例検討会を通してレントゲン画像、MRI 画像、CT画像の読影を学び、手術を介助・見学して整形外科疾病に対する理解を深める。スポーツ選手の障害治療、競技力向上のため、体力測定を通してリハビリテーションの実際を学ぶ。</p>
<p>産婦人科</p>	<p>妊婦健診・分娩管理・産褥ケアを実践し、妊娠女性の特異的な生理・病理学を学ぶ。正常新生児をとりあつかい、その日令ごとの生理機能の変化を理解する。手術に参加し、とくに帝王切開術と婦人科内視鏡手術の基本を理解する。閉経後女性に特有の疾患の診療(女性内科)に参加する。 新しい生殖補助医療を用いた不妊治療に触れ、知識を身につけ、理解を深める。これらを通してさらに、女性患者の心理的側面を理解し、面接技術をたかめる。</p>
<p>皮膚科</p>	<p>外来および入院患者の診療に従事し、皮膚病一般の知識、鑑別能力を高める。皮膚科的検査法(真菌検査、皮膚貼付テスト、ツアंकテスト、細菌、真菌培養など)や、皮膚生検とその病理診断学を学習する。治療として、各種軟膏療法、冷凍療法、細菌、ウィルス感染の治療、熱傷の治療などに習熟し、皮膚小手術も行う。皮膚科学会へ積極的に参加し、症例の学会報告も行う。</p>

泌尿器科	<p>指導医の下で外来、病棟、手術室の仕事に従事し、泌尿器科臨床の基本的知識・機械類の操作、手技を習得する。 また、泌尿器科救急疾患についての理解を深め、基本的な処置や対処が行えるように努める。</p>
眼科	<p>眼科臨床に必要な基本的知識、眼科主要疾患に関する診断・治療の基本的技術を学ぶ。外来における諸検査、処置、および内眼手術、外眼手術、レーザー手術など外科的治療法を習得する。 また、救急患者も対応できる技術および態度も習得する。</p>
脳神経外科	<p>脳神経外科疾患は、急性かつ重症例が多いため、第一線の医療現場で適切・迅速な診断と治療ができる能力が必要とされる。まず、脳神経外科診断能力(問診、神経学的検査、病歴の記載、画像診断など)を習得し、次に、治療の選択、術前術後管理を習得後、開頭・閉頭術および脳内手術の実際を理解し脳神経手術の助手が出来ることを目標とする。</p>
耳鼻いんこう科	<p>耳鼻咽喉科医として必要な知識を修得する。基本的な診察、処置、検査、手術手技を理解、修得する。 並びに耳鼻咽喉科救急疾患に対する知識と対処を身につける。</p>
麻酔科・救急科	<p>実際の麻酔を通じて、呼吸・循環の基礎事項を確認し、気道確保(バッグ&マスク・ラリゲルマスク・気管内挿管等)と呼吸管理・静脈路確保(末梢・中心静脈・IVH)と輸血管理を修得する。 応用として、地域救命センターで危機的状況にある患者にあたり、集中治療室では重症患者・術後患者の治療に参加する。 また、外来ではペインクリニックの基礎を学ぶ。</p>
放射線科	<p>放射線科診療、とくに画像診断のための基礎的知識と技術を習得する。 超音波診断、CT、MRI、血管造影(Interventional Angiographyを含む)、単純X線、消化管透視等の正常画像解剖の理解と悪性腫瘍を主とした画像診断を研修の柱とする。 核医学、放射線治療は週1回の専門医の指導を受けることが可能である。</p>
精神科・心療内科	<p>精神科入院患者・外来患者を中心に、臨床精神医学における全般的な面接および診断技能、診断するうえに必要な各種身体的、心理的検査の意義の理解し、治療技能、態度を身につける。精神科救急患者の診断法、治療法を身につける。全診療科へのコンサルテーション・リエゾン精神医学サービス(ターミナルケアを含む)に参加する。精神療法を修得する。長期入院患者のリハビリテーション活動に参加する。</p>
病理診断科・臨床検査科	<p>臨床検査科の一部門として、当院の外科病理学(生検検体および手術検体の病理学的検索)、細胞診検査、および病理解剖業務を担当している。呼吸器検討会や婦人科検討会を定期的に行っている。 CPCは、ほぼ全症例について、火曜日夕方の内科検討会の後に行っている。1~2か月の短期間で病理診断技術の全てを会得するのは極めて難しいと思われるが、病理診断がどういうレベルでどの様な過程で行われているのかを知ることは臨床業務を行う上でも役立つと考えられる。</p>

⑥研修の週間スケジュールの一例 * **全研修医合同** 各科で必修研修項目

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
7:45 ~8:15		各科新患検討会	早朝合同レクチャー ミーティング①	各科新患検討会	早朝合同レクチャー ミーティング②
8:15 ~8:45	各科抄読会 各科全体新患 報告会 各科新患病棟 回診	各科新患病棟 回診	各科新患病棟 回診	各科新患病棟 回診	各科新患病棟 回診
午前	各科研修	各科研修	救命センター	各科研修	各科研修
午後	救命センター	各科研修	各科研修	各科研修	各科研修
18:00 ~20:00		内科症例検討会 死亡報告			
20:00 ~21:00		合同CPC			

* 内科の研修例

1. 研修医の受け持ち新患者について症例提示を行い主任指導医、副指導医(主治医)から指導を受ける。
2. 1年次、2年次とも研修医全員が参加し、当院指導医または米国指導医による早朝レクチャーを受ける。
3. 内科スタッフ医師の抄読会に交って、研修医も受け持ち症例に関するEBM検索又はN Eng J Med から選択した英字論文を抄読し、10分以内で発表する。
4. 地域救命センターにおいて、内科系の救急当番医とともに救急患者の診療を担当する。
5. 全内科医、放射線科医、病理医も参加してCPCを行う。また、その前に行われる内科症例検討会に症例を提示する。

⑦研修の注意

1. 研修医は、研修期間中、専門分野に偏らない全般的な初期臨床研修に専念するものとする。
2. 研修医は、医療局臨床研修室の所属とする。
3. コアローテーションは、基本科目(内科、救急、地域医療、外科、小児科、産婦人科、精神科)とする。
4. 科目選択の基準
 - i. オリエンテーション:1週間は必須
 - ii. 内科研修:24週以上
 - iii. 救急研修:12週以上
 - iv. 地域医療:4週以上
 - v. 外科 :4週以上
 - vi. 麻酔科 :4週以上
 - vii. 小児科 :4週以上
 - viii. 産婦人科:4週以上
 - ix. 精神科 :4週以上
 - x. 選択科目
5. 初期臨床研修期間中のアルバイトは禁止とする。
6. 研修医は、1年次終了後に、ローテーションの変更を申し出ることができる。
7. 診療にあたっては以下の事柄に注意する。
 - i 担当医として毎日回診を行い、指導医により診療行為の指導を受ける。
 - ii 治療法および治療薬の決定などの重要な決定事項については指導医の承諾を得る。
 - iii 指導医とのチームミーティングを毎日行う。
 - iv 医療の安全に十分に配慮する。
8. 研修スケジュールなどに問題が生じた場合は各科の指導責任者に最初に相談する。
9. 研修医の精神及び身体的な健康状態に配慮する。

⑧経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態

1. 経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候(29 症候)

2. 経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)(26 疾病・病態)

※ 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むものとする。

⑨研修の記録、評価および修了判定

1. 研修医は、院内の電子カルテ及びオンライン卒後臨床研修評価システム(EPOC2)、研修医評価票Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを利用して、臨床研修についての記録をし、評価を受ける。
上記評価を踏まえ、年 2 回以上、プログラム責任者・研修管理委員が、研修医に対してフィードバックを行う。
2. レポートは指導医の検閲を受け、電子カルテ上の退院サマリーを利用し提出する。
3. 臨床研修管理委員会は、2 年間の研修期間の終了にあたり、研修期間中の評価や到達目標の達成度および臨床医としての適性、各分野・各診療科の研修期間等について総括的な評価を行い、研修医評価票を用いて研修修了の判定を行う。この判定に基づき、病院長が修了の認定を行う。

※「医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「基本的診療業務」についての達成度を研修医評価票を用いて判定する。

4. 研修期間を通じて、休止期間の上限は 90 日間とする(当院の定める休日は含まない)。休止期間として認められるものは、傷病、妊娠、出産、育児その他正当な理由によるものであること。

⑩指導体制

指導は各学会の認定医、指導医、専門医もしくは相応の業績があり7年以上の臨床経験を有する医師により行われる。指導医数 約 45 名。

⑪初期研修後の進路

2年間の初期臨床研修終了後、3年次より以下の進路の選択が可能である。

1. 大学または他病院での専門コース(金沢大学、富山大学、他)
2. 当院での4年間のシニアレジデントコース(クリニカル・レジデンシー／フェロースhip)(大学病院や他病院との連携)
3. 当院の内科専門研修プログラム(新専門医制度)による研修

VI. 協力型病院及び臨床研修協力施設

協力型病院

かみいち総合病院(精神科入院) 2~4週間

- ・ 研修実施責任者 : 岡部 彰人 (神経精神科部長)

あさひ総合病院(地域医療一般外来・在宅医療) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 東山 考一 (あさひ総合病院長)

市立根室病院(地域医療一般外来・在宅医療) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 川本 雅樹 (市立根室病院長)

金沢大学附属病院(選択科目) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 岡島 正樹 (研修医・専門医総合教育センター長)

富山大学附属病院(選択科目) 4週間

- ・ プログラム責任者 : 岡澤 成祐 (卒後臨床研修センター長)

富山県立中央病院(選択科目/救急:ドクターヘリ同乗研修) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 音羽 勘一 (臨床研修管理委員長)

大崎市民病院(救急科) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 竹内 雅治 (アカデミックセンター部長)

厚生連滑川病院(地域医療一般外来・在宅医療) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 小栗 光 (厚生連滑川病院長)

臨床研修協力施設

富山県赤十字血液センター(選択科目/保健・医療行政)

- ・ 研修実施責任者 : 横川 博 (富山県赤十字血液センター所長)

富山県新川厚生センター(選択科目/保健・医療行政)

- ・ 研修実施責任者 : 櫻田 惣太郎 (富山県新川厚生センター所長)

大崎市民病院 岩出山分院(地域医療一般外来・在宅医療) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 加藤 博孝 (岩出山分院 院長)

大崎市民病院 鹿島台分院(地域医療一般外来・在宅医療) 4週間

- ・ 研修実施責任者 : 郷右近 祐司 (鹿島台分院 院長)

※協力型病院及び協力施設での研修期間は最大で12週までとする。

Ⅶ. 研修実施責任者及び臨床研修管理委員会

1. 研修実施責任者

辻 宏和（院長）

2. プログラム責任者・臨床研修管理委員長

丸山 裕美子（理事、臨床研修センター所長）

3. 臨床研修管理委員会の役割

- ・ 臨床研修プログラム検討会議を開催する。研修の指導資料を参考に、達成度の低いものに関し、具体的な援助や指導を行う。
- ・ 研修医の評価および修了判定を行う。
- ・ 各診療科から提出された前年度の研修の評価を踏まえ、その年度の研修プログラムの見直しと必要な修正を行う。
- ・ その年度の研修医配置案を作成し、募集要項と共に大学病院などに公開する。

<臨床研修プログラム>

4. 臨床研修管理委員会名簿（R8.4.1 時点）

	氏 名	職 名
委員長	丸山 裕美子	理事、耳鼻いんこう科部長、臨床研修センター所長
副委員長	小宮 良輔	国際交流部長、救急科部長
〃	中坪 久乃	小児科部長、臨床研修センター所長代理
〃	才津 義亮	産婦人科医長
〃	中村 翔大	内科医長
委員	辻 宏和	院長、研修実施責任者
〃	寺田 逸郎	副院長、外科部長
〃	吉本 敬一	医療局長、腎臓・リウマチ内科部長
〃	片岡 久嗣	麻酔科部長、中央手術室長
〃	渡邊 和美	看護部長
〃	中嶋 ひとみ	事務局長
〃	牧野 恵美	事務局次長、総務課長
〃	櫻田 惣太郎	富山県新川厚生センター所長
〃	横川 博	富山県赤十字血液センター所長
〃	東山 考一	あさひ総合病院長
〃	川本 雅樹	市立根室病院長
〃	岡島 正樹	金沢大学附属病院 研修医・専門医総合教育センター長
〃	岡澤 成祐	富山大学附属病院 卒後臨床研修センター所長
〃	岡部 彰人	かみいち総合病院 神経精神科部長
〃	音羽 勘一	富山県立中央病院 研修管理委員長
〃	小栗 光	厚生連滑川病院長
〃	竹内 雅治	大崎市民病院 アカデミックセンター部長
〃	加藤 博孝	大崎市民病院岩出山分院 分院長
〃	郷右近 祐司	大崎市民病院鹿島台分院 分院長
外部委員	高桜 英輔	高桜内科医院理事長、黒部市民病院名誉院長
〃	山本 真也	特別養護老人ホーム越野荘、越路さくら 施設長
担当係	石川 憲一	総務課臨床研修係長
〃	吉枝 りんご	総務課主査
〃	西村 佐智子	総務課

病院見学 随時受付中！

まずは、メール、電話等でお気軽にお問い合わせください！

見学する科や日程等は希望に応じ柔軟に対応します！

■申込書類

「事前見学申込書」（別紙書式。HPにも掲載）

■申込先・問い合わせ先

〒938-8502 富山県黒部市三日市 1108 番地 1

黒部市民病院 総務課 臨床研修係 （担当 吉枝・石川）

TEL: 0765-54-2211 FAX: 0765-54-2962

E-mail: somu2@med.kurobe.toyama.jp

■その他

- ・ 見学に伴う宿泊費は病院で負担します。
- ・ 富山県外からの見学に対し、富山県から交通費の補助があります。

（県内の2病院を見学または受験した方が対象）

黒部市民病院 初期臨床研修医募集

事前見学申込書

記入日 令和 年 月 日

プロフィール

ふりがな		性別 男・女
氏名		
年齢	才	
大学名	_____大学	_____年
大学卒業予定	年 月	
出身高校		高校
出身地		(市区町村名までで構いません)
現住所		
電話		
E-Mail		
将来志望学科		

見学希望に関すること

見学日	月 日
診療科 (第3希望まで記載)	・内科の場合の希望分野 (循環器内科、呼吸器内科、内分泌内科、腎臓内科、消化器内科)
黒部までの 移動手段	自家用車・新幹線・あいの風とやま鉄道(旧JR)・その他
宿泊希望	前泊(有・無) 後泊(有・無) 見学2日間以上の宿泊(有・無) 費用は病院で負担します
自由記載欄	その他希望や見学に期待することなどご自由にお書きください

メールまたは FAX でお申込みください。受付後、日程等を調整します。

【申込先】 黒部市民病院 総務課 臨床研修係

E-Mail : somu2@med.kurobe.toyama.jp FAX : 0765-54-2962 電話 : 0765-54-2211